

有明の丘研修
**「防災基礎」コース
リニューアル**

1. 「防災基礎」コースの現状と本年度の取組み
2. 「選択必修」の導入による受講内容・時間の改善

1. 「防災基礎」コースの現状と本年度の取組み

1) 令和5年度 防災基礎コースにおいて示された課題

令和5年度に実施した防災基礎コースにおいて、応募・実施状況とアンケートの中間集計結果から以下の課題が示された。

令和5年度 第4回企画検討会より（一部修正）

課題：当初予定（600人）よりも多い受講の申込者数

- 本年度の防災基礎コースは、これまでの実績を踏まえてR4までの5倍の定員数である600人を定員としたが、第1期時点で786人と超過している。

課題：当初予定（480分）よりも多い講義時間（必須のみで622分）

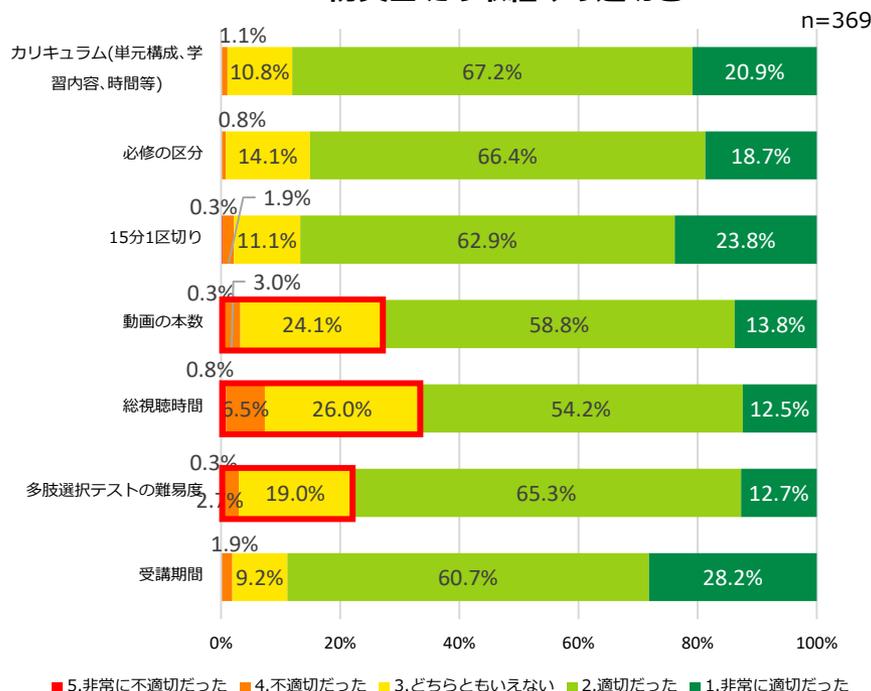
- 当初は480分を目安に防災基礎コースのカリキュラムを設計した。
- 現時点で必須のみで受講時間が622分になっており、受講者の負担が大きい。

➡本年度は上記の課題を踏まえてリニューアルを実施

防災基礎の取組みは適切だったか

1. 防災基礎コースのアンケートは昨年度の中間集計時と同様に**動画の本数と総視聴時間が多い**という意見がみられた。
2. 多肢選択テストにおいても「どちらともいえない」が約2割あり、引き続き注視が必要である。
 →上記の2点について令和5年度第5回企画検討会で提示した対応方針※に基づき見直し・改善を進める。

防災基礎の取組みの適切さ



<充実すべき内容等に関する受講者意見>

1. 近年の災害の時系列解説や課題をまとめた単元を増やしてはどうか。
2. BCPについて触れてはどうか。
3. 大学教授やNPOの話を増やしてはどうか。

<防災基礎コース全般に関する受講者意見>

1. 受講時間の捻出が難しかった。
2. 他コースの受講が重なると視聴が難しかった。
3. 受講者や受講期間の制限を設けず、いつでも・だれでも受講できるようにしてはどうか。
4. 年度当初の研修に活用できると良い。
5. 修了証を発行して欲しい。

※R5 第5回企画検討会で示された対応方針

- ① ニーズの高い時期に合わせた受講期間・定員の設定
- ② 受講時間の負担軽減
- ③ 多肢選択テストの改善

2) 防災基礎コースのカリキュラム

防災基礎コースの単元名、概要、受講時間は以下のとおり（詳細は参考資料3を参照）。

No	単元名	概要	受講時間
1 必修	概論	防災・危機管理の基本的な考え方や、我が国の自然特性、近年の災害事例について学ぶ。	64分
2 必修	風水害のハザード	風水害発生メカニズムと、風水害災害による被害の概要について学ぶ。	66分
3 必修	地域の災害脆弱性と防災対策の概要	自然災害による人的被害の実態を理解し、地域ごとの災害特性やハザードマップの読み方、風水害、地震のハード対策を学ぶ。	83分
4 必修	災害法体系・防災計画・災害への備え	防災活動全体の流れや災害関連法の体系、防災関連計画、政府の初動体制、防災人材育成、地区防災計画、個別避難計画等の概要を学ぶ。	97分
5 必修	災害から命を守る	「災害から命を守る」ための基本的な知識として、防災気象情報の概要や、避難情報の意味や内容を学ぶ。	67分
6 必修	被災者の応急救助	災害救助法の概要を理解し、被災者のいのちを守るために行う活動の概要や事前に備えておくべきことを学ぶ。	62分
7 必修	災害から暮らしを守る	避難所の開設・運営、災害廃棄物処理、被害認定調査、災害ケースマネジメント等、行政が行う手続きの基本を学ぶ。	63分
8 必修	災害時の応援・受援体制	災害時に行う応援受援に係る制度、受援体制の構築および受援計画の作成、応急対策職員派遣制度等の概要について学ぶ。	31分
9 必修	災害から回復する	被災者生活再建支援制度、災害弔慰金・災害援護資金、激甚災害制度、大規模災害からの復旧・復興、インフラ復旧の基本を学ぶ。	60分
10 必修	多様な視点からの災害対応	地域の多様な主体が避難所運営に係ることの意義や、災害時における男女共同参画の必要性等について学ぶ。	29分
必修単元合計			622分
11 選択	地震・津波災害のハザード	地震・津波発生メカニズムと、その災害の被害、地震・津波の観測・予測情報、防災対策の基本を学ぶ。	63分
12 選択	火山災害のハザード	主な火山の噴火現象、火山噴火の観測・予測情報、火山災害の被害や対策の基本を学ぶ。	77分
13 選択	大規模地震対策① 首都直下地震の対策	首都直下地震を対象に、その被害想定等や、「緊急対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。	36分
14 選択	大規模地震対策② 南海トラフ地震の対策	南海トラフ地震を対象に、その被害想定等や、「緊急対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。	31分
15 選択	大規模地震対策③ 日本海溝・千島海溝周辺 海溝型地震の対策	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震を対象に、その被害想定等や、「防災対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。	30分
16 選択	大規模地震対策④ 東日本大震災の教訓	東日本大震災の復興過程で明らかとなった主たる課題や困難、そこから得られた教訓について学ぶ。	16分
選択単元合計			253分
必修+選択単元合計			875分
令和4年度 第2期			478分

3) 本年度の防災基礎コースの取組み

1) ~ 2) で示した課題と現状を踏まえて、令和6年度に「防災基礎」コースで実施するリニューアルを整理した。

①受講期間・定員の拡大

➡ 令和6年度より新たなシーズンの募集・実施を追加

R6年度の防災基礎コースは3シーズンに分けて実施する。

➤ 出水期及び職員の異動時期をターゲットにした5~7月の開催を新設する。

シーズン1 : 5月~7月 (800名) **新設** ※R5公開のコンテンツを流用
シーズン2 : 9月~11月 (400名) ※コンテンツをR6版に更新
シーズン3 : 12月~2月 (400名)

すでに実施しているシーズン1の応募状況は下記のとおり。

時期	受講者数	定員	倍率
シーズン1	663名	800名	0.83倍

※定員に満たなかった分はシーズン2以降の枠に振り分け

②受講時間の負担軽減

➡ シーズン2のコンテンツ更新とあわせた受講時間の見直し

各単元の再撮影がある場合、予定時間を超過しないよう時間厳守を依頼する

➡ 「選択必修」の導入による受講内容・時間の改善

昨年度の検討において、受講時間短縮の方策として「選択必修」の導入が挙げられた。

参考：コースコーディネーターの意見（令和6年3月に聴取）

- ・ 防災基礎コースの「選択必修」は、約480分になるような必要視聴単元数を設けてはどうか。
- ・ 必修を設けず全て選択必修扱いにして受講者の希望で自由に選んでもらってもよいのではないか。

次のページ以降に、選択必修の設定に向けた考え方と設定例を整理した。

➡ その他、受講時間の改善に関する検討

「選択必修」の導入以外に受講内容・時間の改善の方法がないか検討する
(例：短時間で視聴できる「まとめ」単元の作成 など)

③他コースと合わせたリニューアル化

➡ 防災基礎コース以外のリニューアル状況を踏まえた反映

防災基礎コース以外の見直しを進める中で、防災基礎で学ぶ範囲と各コースで学ぶ範囲の整理が進むと考えられる。

それらの状況を踏まえ、今後、防災基礎コースへの反映について検討する。

2. 「選択必修」の導入による受講内容・時間の改善

1) これまでの防災基礎コースにおける単元構成の考え方

防災基礎コースは、**防災活動を行う上での「枠組み」**や、**最低限理解しておくべき「基礎的な知識」**を学ぶコースとして設定されており、下図に示す構成で単元が設定されてきた。

令和4年度 第4回企画検討会より

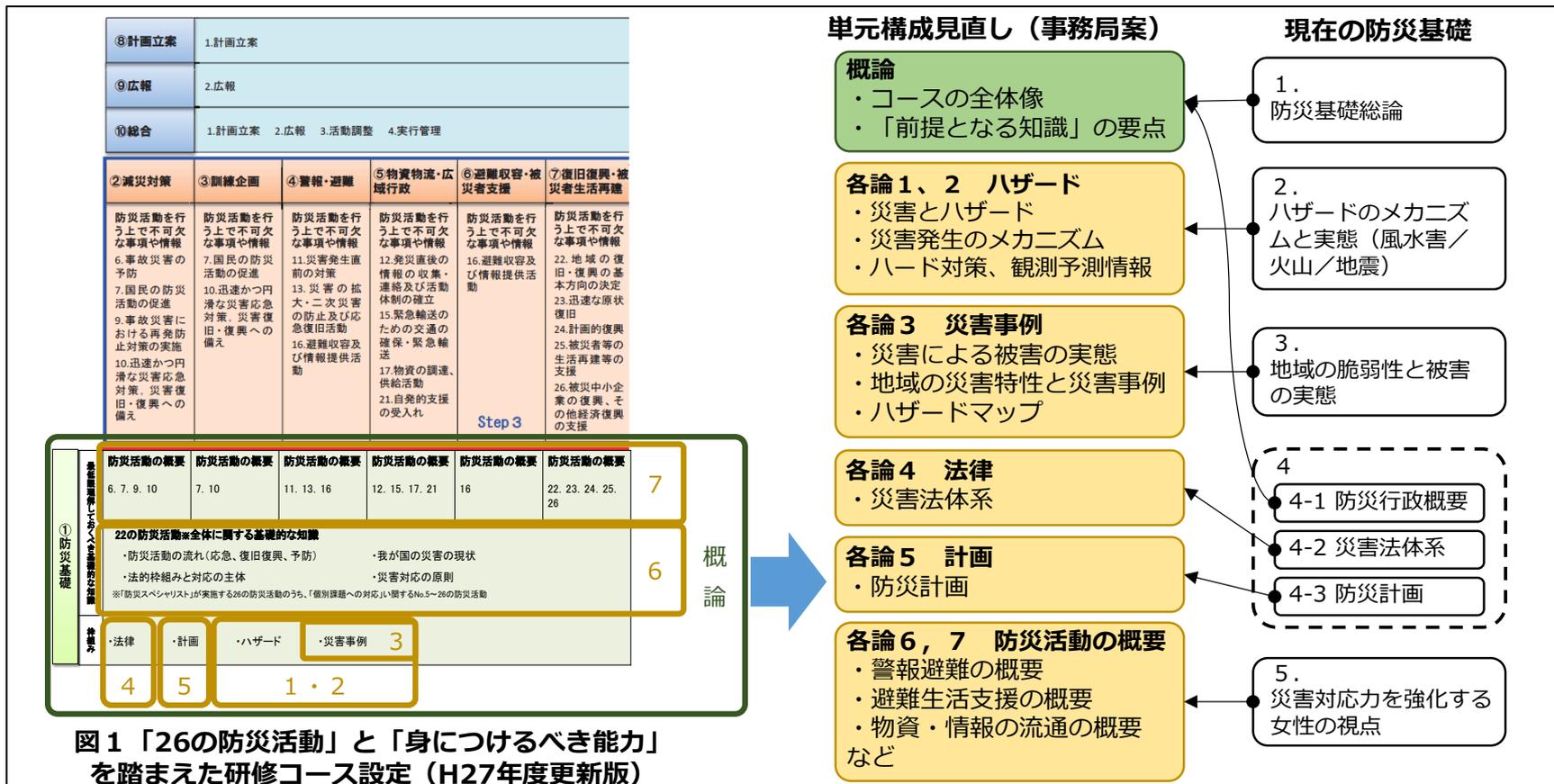


図1 「26の防災活動」と「身につけるべき能力」を踏まえた研修コース設定 (H27年度更新版)

【コース設定の考え方】
 防災基礎では「前提となる知識」としてハザード、災害事例、法律、計画の枠組みと、**防災活動の基礎知識**を習得する

(H26年度) 防災基礎コースの設定
 ・26の防災活動と身につけるべき能力によりコースを設定
 ・前提となる知識を習得するコースとして**防災基礎**を設置
 (平成26年度検討会報告書より)

2) 各構成要素と必修単元の関係性

前ページで示した構成要素と現状の必修単元の関係性は以下のとおり。

	構成要素	必修単元
枠組み	ハザード	No.2 風水害のハザード
	災害事例	No.3 地域の災害脆弱性と防災対策の概要
	法律	No.4 災害法体系・防災計画・災害への備え
	計画	
基礎的な知識	防災活動の概要	No.5 災害から命を守る No.6 被災者の応急救助 No.7 災害から暮らしを守る No.8 災害時の応援・受援体制 No.9 災害から回復する No.10. 多様な視点からの災害対応

➡上記の構成を踏まえて、
現在の必修単元をもとに「**選択必修※**」の考え方を整理し、
設定方法を検討してはどうか

※選択必修：指定された単元のうち、決められた数の視聴を必要とするもの

3) 「必修」 + 「選択必修」の3設定例

前ページで示した構成要素を踏まえて、3つの設定例を整理した。

設定例		必修	選択	特徴、利点/欠点
①	概論、法律、計画を必修	2 単元 (161分)	8 単元 (461分) うち6単元履修	<p>必要最低限の内容として、概論、法律、計画のみを<u>必修</u>に設定し、それ以外を<u>選択必修</u>に設定</p> <p>【利点】 なるべく多くの単元を選択必修にすることで単元選択の自由度が高い。既知の内容や自身と関連性の少ない単元を受講せずに済む。</p> <p>【欠点】 単元選択が受講者に委ねられるため受講者自身の自己判断能力が必要。</p>
②	概論、枠組み、ハザード、災害事例を必修	4 単元 (310分)	6 単元 (312分) うち4単元履修	<p>①の必修範囲を拡大。どの地域でも起こりえる風水害のハザードと災害事例を追加で必修に設定。他コースとの連動性の高い「防災活動」は受講者の希望によって選択できるよう<u>選択必修</u>に設定。</p> <p>【利点】 ①から「必修」範囲がさらに拡張。</p> <p>【欠点】 既知の内容の単元や受講者自身に関連性の低い単元でも受講が必要になる場合がある</p>
③	すべてが「選択必修」	0 単元 (0分)	10 単元 (622分) うち8単元履修	<p>①から「<u>選択必修</u>」範囲がさらに拡張し、すべてを<u>選択必修</u>に設定</p> <p>【利点】 さらに単元選択の自由度が増している</p> <p>【欠点】 単元選択でさらに自己判断能力が必要。コースの全体像を示す概論が含まれていないため体系的な学習が難しい。</p>

■ 設定例①：概論、法律、計画を必修とするパターン

必修：2 単元（161分） 選択必修：8 単元（461分） ※うち6単元を履修

現 No	単元名	概要	受講時間	分類	必修	選択必修
1 必修	概論	防災・危機管理の基本的な考え方や、我が国の自然特性、近年の災害事例について学ぶ。	64分	全体概要	●	
2 必修	風水害のハザード	風水害発生メカニズムと、風水害災害による被害の概要について学ぶ。	66分	ハザード		●
3 必修	地域の災害脆弱性と防災対策の概要	自然災害による人的被害の実態を理解し、地域ごとの災害特性やハザードマップの読み方、風水害、地震のハード対策を学ぶ。	83分	災害事例		●
4 必修	災害法体系・防災計画・災害への備え	防災活動全体の流れや災害関連法の体系、防災関連計画、政府の初動体制、防災人材育成、地区防災計画、個別避難計画等の概要を学ぶ。	97分	法律・計画	●	
5 必修	災害から命を守る	「災害から命を守る」ための基本的な知識として、防災気象情報の概要や、避難情報の意味や内容を学ぶ。	67分	防災活動		●
6 必修	被災者の応急救助	災害救助法の概要を理解し、被災者のいのちを守るために行う活動の概要や事前に備えておくべきことを学ぶ。	62分	防災活動		●
7 必修	災害から暮らしを守る	避難所の開設・運営、災害廃棄物処理、被害認定調査、災害ケースマネジメント等、行政が行う手続きの基本を学ぶ。	63分	防災活動		●
8 必修	災害時の応援・受援体制	災害時に行う応援受援に係る制度、受援体制の構築および受援計画の作成、応急対策職員派遣制度等の概要について学ぶ。	31分	防災活動		●
9 必修	災害から回復する	被災者生活再建支援制度、災害弔慰金・災害援護資金、激甚災害制度、大規模災害からの復旧・復興、インフラ復旧の基本を学ぶ。	60分	防災活動		●
10 必修	多様な視点からの災害対応	地域の多様な主体が避難所運営に係ることの意義や、災害時における男女共同参画の必要性等について学ぶ。	29分	防災活動		●
受講時間合計			622分		161分	461分

■ 設定例②：概論、枠組み、ハザード、災害事例を必修とするパターン

必修：4単元（310分） 選択必修：6単元（312分） ※うち4単元を履修

現 No	単元名	概要	受講時間	分類	必修	選択必修
1 必修	概論	防災・危機管理の基本的な考え方や、我が国の自然特性、近年の災害事例について学ぶ。	64分	全体概要	●	
2 必修	風水害のハザード	風水害発生メカニズムと、風水害災害による被害の概要について学ぶ。	66分	ハザード	●	
3 必修	地域の災害脆弱性と防災対策の概要	自然災害による人的被害の実態を理解し、地域ごとの災害特性やハザードマップの読み方、風水害、地震のハード対策を学ぶ。	83分	災害事例	●	
4 必修	災害法体系・防災計画・災害への備え	防災活動全体の流れや災害関連法の体系、防災関連計画、政府の初動体制、防災人材育成、地区防災計画、個別避難計画等の概要を学ぶ。	97分	法律・計画	●	
5 必修	災害から命を守る	「災害から命を守る」ための基本的な知識として、防災気象情報の概要や、避難情報の意味や内容を学ぶ。	67分	防災活動		●
6 必修	被災者の応急救助	災害救助法の概要を理解し、被災者のいのちを守るために行う活動の概要や事前に備えておくべきことを学ぶ。	62分	防災活動		●
7 必修	災害から暮らしを守る	避難所の開設・運営、災害廃棄物処理、被害認定調査、災害ケースマネジメント等、行政が行う手続きの基本を学ぶ。	63分	防災活動		●
8 必修	災害時の応援・受援体制	災害時に行う応援受援に係る制度、受援体制の構築および受援計画の作成、応急対策職員派遣制度等の概要について学ぶ。	31分	防災活動		●
9 必修	災害から回復する	被災者生活再建支援制度、災害弔慰金・災害援護資金、激甚災害制度、大規模災害からの復旧・復興、インフラ復旧の基本を学ぶ。	60分	防災活動		●
10 必修	多様な視点からの災害対応	地域の多様な主体が避難所運営に係ることの意義や、災害時における男女共同参画の必要性等について学ぶ。	29分	防災活動		●
受講時間合計			622分		310分	312分

■ 設定例③：すべてが「選択必修」とするパターン

必修：0単元（0分） 選択必修：10単元（622分） ※うち8単元を履修

現 No	単元名	概要	受講時間	分類	必修	選択必修
1 必修	概論	防災・危機管理の基本的な考え方や、我が国の自然特性、近年の災害事例について学ぶ。	64分	全体概要		●
2 必修	風水害のハザード	風水害発生メカニズムと、風水害災害による被害の概要について学ぶ。	66分	ハザード		●
3 必修	地域の災害脆弱性と防災対策の概要	自然災害による人的被害の実態を理解し、地域ごとの災害特性やハザードマップの読み方、風水害、地震のハード対策を学ぶ。	83分	災害事例		●
4 必修	災害法体系・防災計画・災害への備え	防災活動全体の流れや災害関連法の体系、防災関連計画、政府の初動体制、防災人材育成、地区防災計画、個別避難計画等の概要を学ぶ。	97分	法律・計画		●
5 必修	災害から命を守る	「災害から命を守る」ための基本的な知識として、防災気象情報の概要や、避難情報の意味や内容を学ぶ。	67分	防災活動		●
6 必修	被災者の応急救助	災害救助法の概要を理解し、被災者のいのちを守るために行う活動の概要や事前に備えておくべきことを学ぶ。	62分	防災活動		●
7 必修	災害から暮らしを守る	避難所の開設・運営、災害廃棄物処理、被害認定調査、災害ケースマネジメント等、行政が行う手続きの基本を学ぶ。	63分	防災活動		●
8 必修	災害時の応援・受援体制	災害時に行う応援受援に係る制度、受援体制の構築および受援計画の作成、応急対策職員派遣制度等の概要について学ぶ。	31分	防災活動		●
9 必修	災害から回復する	被災者生活再建支援制度、災害弔慰金・災害援護資金、激甚災害制度、大規模災害からの復旧・復興、インフラ復旧の基本を学ぶ。	60分	防災活動		●
10 必修	多様な視点からの災害対応	地域の多様な主体が避難所運営に係ることの意義や、災害時における男女共同参画の必要性等について学ぶ。	29分	防災活動		●
受講時間合計			622分			622分